

2017年東海地区情報交歓会報告書

「愛知県半田市」

世界で躍進する株式会社豊田自動織機様の東知多工場の見学および地方都市である半田市の“半田赤レンガ建物”で情報交換会を行いました。また、翌日は第8回はんだ山車祭り会場と近郊で商工観光施設の見学探訪を行いました。

開催日時 2017年10月6日（金）、7日（土）

参加人員 延べ15名

開催場所： 愛知県半田市

株式会社豊田自動織機様東知多工場では、国内でも珍しいエンジンの溶鉱炉による鑄造工程の見学から、組み立て工程など通常は非公開の貴重な製造ラインの見学をさせていただきました。鉄系の材料を集積してキューポラ（溶鉱炉）でオレンジ色にどろどろに溶解された材料が火花を散らして流れ出る様子からは、まさに昭和の経済成長の礎となった自動車産業の根幹を垣間見ることができました。

この東知多工場では、主に海外向けの2600ccを超える大型のエンジンを製造しており、外国の自動車の基幹部品の製造を日本が支えていることを実感できました。

また、製造工程には寸分の無駄もなくとても綺麗に整理整頓がなされていました。人員の配置も急な病欠などにも対応できるよう予備人員を常に待機させるなどスムーズな生産ができるよう特別の配慮がなされていました。

組みあがったエンジンはロボットアームやAGV（自動搬送車）により安全かつ迅速な運搬がなされており無駄を感じさせません。

普段目にすることができない、すばらしい工場を見学でき、参加したメンバーからも感嘆の声が上がっていました。



■工場見学の後の質疑の様子



■見学後の集合写真



■情報交歓会会場の半田赤レンガ建物

半田赤レンガ建物において、半田の産業、文化、商工施策について副理事長の加藤学より説明をしました。

人口減に入った半田市では、全国と同じ 26%を超える高齢化率が問題となっていることや、商工活性化と観光産業に力を入れていること。またミツカン酢に代表される醸造業が盛んな半田市ではありますが、一方で観光コンテンツが少なく、地方創生の掛け声の下、知恵を絞って観光客を増加させたいと商工会議所、市役所や観光協会などで腐心している事など説明がありました。

半田市には、「てぶくろを買いに」や「おじいさんのランプ」で有名な童話作家 新美南吉の生家があり、新美何吉記念館もあります。また春秋に祭事として行われる地域の山車祭りや5年に一度開催される全国一の31輦の山車が一同に会す、“はんだ山車祭り”のほか、半田運河などの貴重な観光資源を軸としたオリジナルコンテンツを生み出そうと努力を重ねています。人口減少、少子高齢化がさらに拡大する日本において、全国各地の地方都市でも同じように苦慮している状況を見ていただくことができました。



■中埜酒造株式会社 國盛酒の文化館にて醸造の歴史や文化を見学



■第8回 はんだ山車祭り 5年に一度の31輦の山車が勢ぞろい

捕捉

10月7日(土) 前日から朝まで降り続いた秋雨も上がり、盛大に第8回はんだ山車祭りが挙行されました。午後2時過ぎには全国一の31輦の山車が市役所北の広場に勢ぞろいし、その雄姿を見せました。10km以上も遠方の車庫から市内を引き回して来るのも大変な労力ですが、同時に300年来の歴史と文化の継承が課題となる中、半田市の一大イベントとして定着しつつあります。2日間の人出は恐らく50万人を超えていると推定されており、半田市の人口の5倍弱に膨らんだとても賑やかな2日間でした。